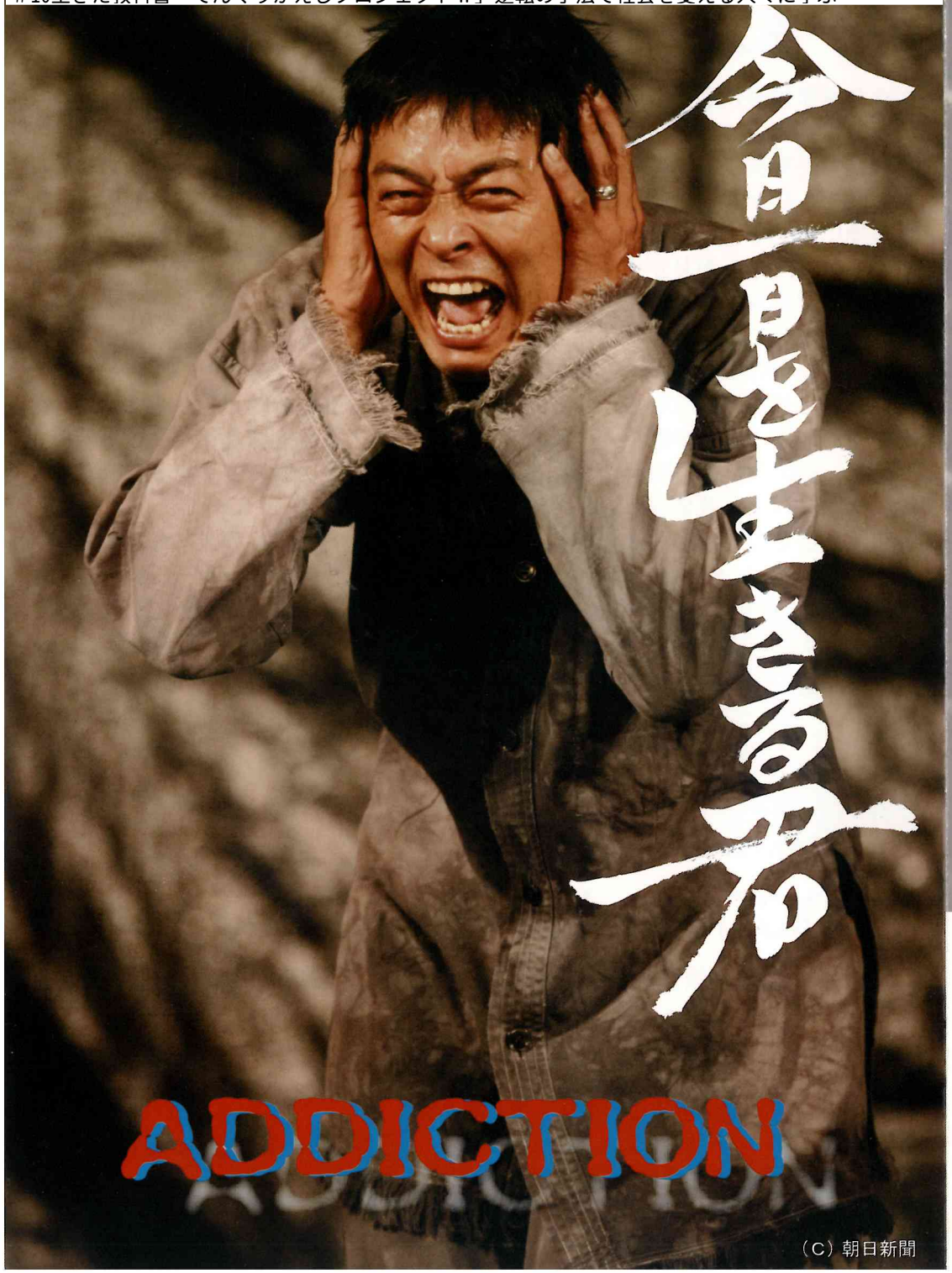
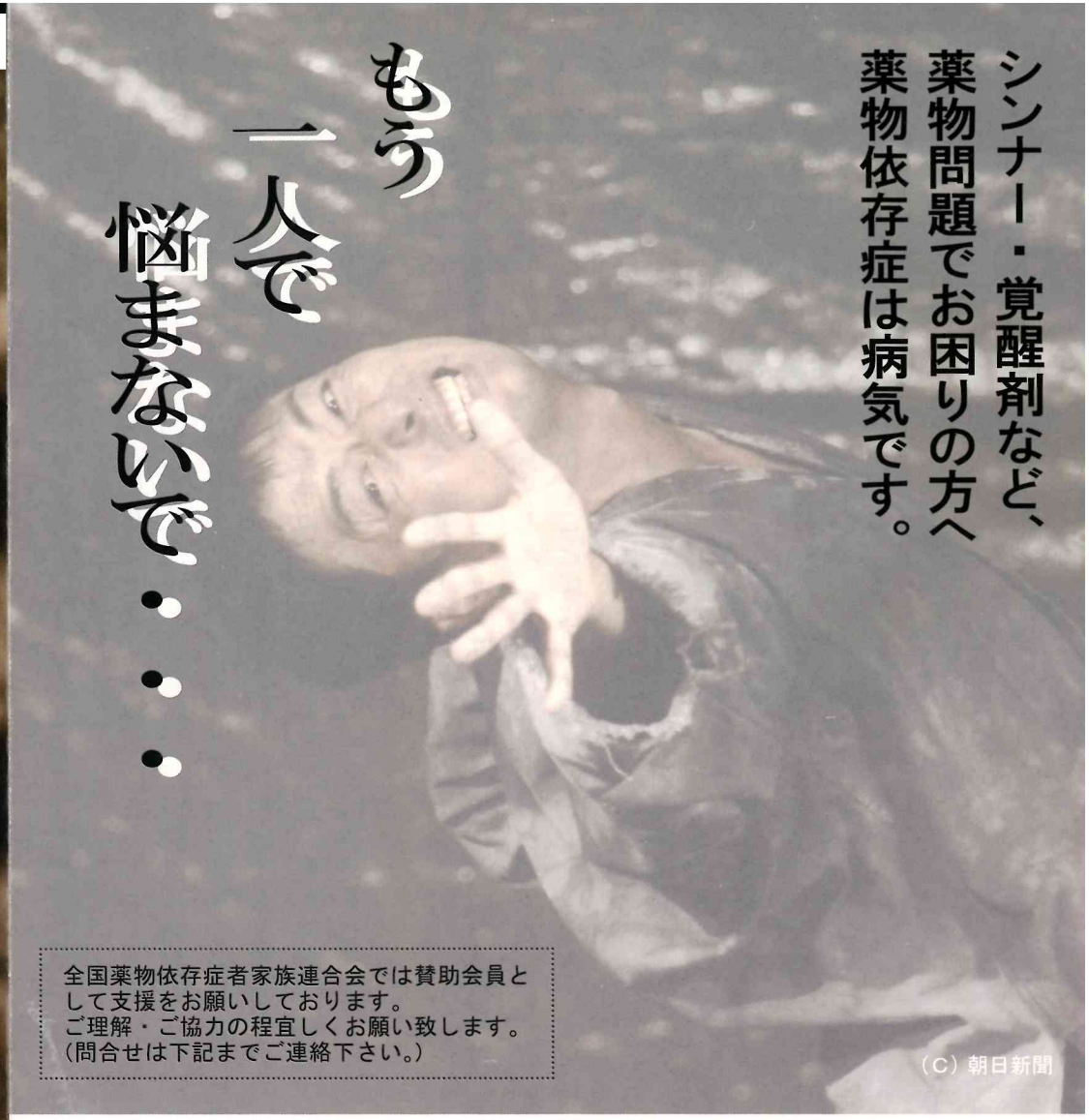
第9回11月15日（水） 19:45〜21:15 2017年度後期乃木坂スクール
＃10生きた教科書「でんぐりがえしプロジェクトⅡ」逆転の手法で社会を変える人々に学ぶ



（C）朝日新聞



全国薬物依存症者家族連合会では賛助会員として支援をお願いしております。
ご理解・ご協力の程宜しくお願い致します。
（問合せは下記までご連絡下さい。）

（C）朝日新聞

La Lino
works of art

「ADDICTION今日一日を生きる君」の公演依頼
そのほか薬物や依存に関するお問い合わせはこちらまで

電　話：048-472-3019（FAX 兼用）
携　帯：090-2316-6821 内谷（うちや）まで
E-mail：la_lino@jcom.home.ne.jp
H　P：http://members2.jcom.home.ne.jp/la_lino/
Yahoo 検索で「内谷正文」と入力して下さい。
「la lino 内谷正文情報」をクリックするとHPが見れます。

内谷　正文（Masabumi Uchiya）

うちや　まさぶみ

１９６９年神奈川県茅ヶ崎市生まれ。俳優・モデル。幼い頃から目立つこと・物を作ることが大好きで中学卒業後、育英工業高等専門学校に入学。デザインの勉強をしながらも暴走族にあけくれる毎日（この頃薬物に出会う）。卒業後は㈱三越に入社・・・が幼い頃の目立ちたがりが抑えきれず翌年には役者を目指し文学座演劇研究所に入所。初めて演劇にふれて芝居のとりこになる（役者は三日やったらやめられないというのは真実かもしれない・・・薬物も一度やったらやめられない。）　以降、舞台・テレビ・広告の仕事をしながらも薬物を使い続ける。その結果、一緒に使用していた一人の大切な弟が薬物依存症に陥る。その後、薬物依存症者回復施設ダルクと出会い茨城ダルク家族会に参加。薬物依存症・共依存症という病気について学ぶ。
現在は、自らの経験を生かし薬物の恐ろしさを一人でも多くの人に伝えるため一人芝居と体験談のメッセージ活動をしながら全国の学校などを廻っている。
”薬物やるな”なんて偉そうに言えない！ただ”薬物やったらこうなるよ”って実感込めて伝えたい。その活動は朝日新聞など、さまざまなメディアにもとりあげられている。

「ADDICTION～今日一日を生きる君」あらすじ

この物語は私の実体験をもとにした一人芝居です。弟が覚醒剤の依存症になった。
両親にとってはまさか・・・という出来事であったに違いない。
私は知っていた。知っていて止められなかった。
私も覚醒剤を使ったことがあるが、どん底まで堕ちなかった・・・。
しかし、弟をどん底の世界に引き込んでしまった。
自分のせいで・・・なんとかしなければ・・・そう心を決めて立ち上がり、
家族と共に光を求めて死に物狂いで今日一日を生きてきた。
薬物依存症となってしまった弟、その家族達の行きつく先は・・・。

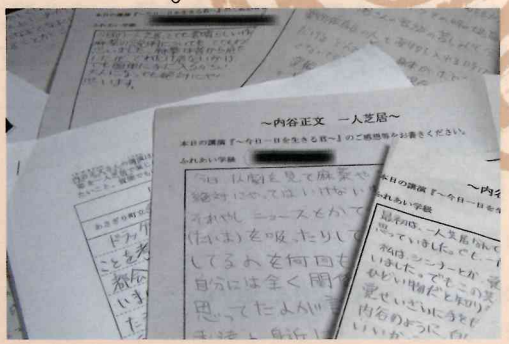
（C）朝日新聞

なぜ一人芝居をやるのか？

一人芝居という独自の表現で薬物依存症という回復はあるが完治はない病気の現実・恐ろしさを伝えたい！内容なんて分からなくてもいいんです！いい大人が一生懸命、薬物のキモチ悪い芝居をしている！それでいいと思う。薬物は得体の知れないキモチ悪いものなんです。人間をバケモノにしてしまうんです。薬物の恐ろしさを肌で感じてほしい。目の前で起きている現実を実感してほしい。それが芝居にできる事だと思う。もう一つは、私は自分の回復の為にも一人芝居をしています。自分の過去をさらけ出し、恥をかくことにより私自身が薬物から回復してゆけるのです。恥をかく勇気が大切です。慣れるとケッコー気持ちいいです。

こどもは何も悪くない

こどもたちから一人芝居を続ける勇気や薬物と闘い続ける力をもらう。こどもたちの前で薬物の現実を表現することで私は救われている。こどもたちは大人が思っている以上に敏感で想像力が豊かだ。私が表現する以上のものを感じてくれる。嘘は見破られる”薬物は怖いと思った！薬物なんかなくなればいい！薬物なんか誰が作るのか？薬物なんか絶対にやりたくない！”こどもたちがアンケートに書いてくれた生の感情や言葉。こどもは何にも悪くない。薬物作っているのも売っているのも大人なんです。わたしたち大人が変わらなきゃ何も変わらない。
ある中学生が薬物依存症の人を救うために署名をやらせて下さいと私に手紙をくれた。薬物の悩みを話してくれた子がいた。こどもたちのと触れ合いがわたしの力になっています。



大丈夫。人は必ず生まれ変われる

一人体験劇	ADDICTION今日一日を生きる君　内谷正文
落　語	カラオケ刑務所　桂才賀
トークセッション	刑務所&薬物&依存症　桂才賀×内谷正文　MC 森一弥

今日一日を生きるLIVEプロジェクト！

goodbye drugs
goodbye addiction！

俳優 内谷正文が魅力的な活動をしてると感じる人とコラボレーションし
お互いの活動の輪を広げていくLIVEプロジェクト!
今回は俳優仲間でありベテランお笑い芸人である森一弥さんの司会で
刑務所慰問を34年続けているハンパじゃない落語家の桂才賀師匠と対談します。
薬物から、依存症からの回復、
また犯罪を犯してしまい刑期を終えてからの社会への回復。
自分のために自分自身を変えて生きていくということ。
それぞれの生き様の中から様々な話しを聞くことが出来ますよ(笑)
この社会で生きていく上でいろいろなことを考えるキッカケになればと思います。
皆様と一緒に意義ある時間を過ごせたら嬉しいです。

ADDICTION
今日一日を生きる君

内谷正文

幼い頃から目立ちたがりで
青春時代にはバイクや車で暴走する毎日、
その頃、薬物に出会い大切な弟まで
薬物の世界に引き込み家族もろとも、
まっ暗闇のどん底に落ちてしまう。
その後、薬物依存症回復施設ダルク、家族会に繋がり
薬物依存症や共依存症について学ぶ。
2005年より自身の体験を一人体験劇として
全国の学校を中心に約200カ所で公演を重ねている。

マンハッタン公演も大好評！

東京マハロ舞台「たぶん、世界を救えないご出会う」

国立演芸場花形演芸会で出会う

カラオケ刑務所

桂才賀

1983年から始め93年には
芸人慰問団「芸激隊」を結成。
現在に至るまでの34年の間、
慰問活動は日本全国、
実に1100回以上に及ぶ。
彼はなぜ受刑者を
笑わせに行くのか！
そして受刑者を
笑わせる極意とは！

刑務所慰問1100回以上!!

笑わせてきた落語家！

世界で一番受刑者を

MC

森一弥

プロレスラーになりたくて高校のレスリング部に
入部、インターハイ出場全国大会6位の成績を収める。
しかし身長が15cm足らず新日本プロレスに
電話で断られる。
その後、1994年に欽ちゃん劇団に入団しお笑いコンビ
「エネルギー」として活動。
コンビ解散後は
舞台を中心に活躍中。

プロレス知識力認定試験2・3級、
温泉ソムリエの資格も所有！

11月28日（火）

OPEN　18：00
START　19：00（21時終了予定）
料金　3,000円（ワンドリンク付）
追加ドリンクオール500円

会場
TOKYO TUC
東京都千代田区岩本町2-16-5
TUCビルB1

JR神田駅 徒歩7分
JR秋葉原駅 徒歩7分
都営新宿線 岩本町駅 徒歩3分
日比谷線 秋葉原駅 徒歩4分
日比谷線 小伝馬町 徒歩4分
銀座線 神田駅 徒歩6分

http://tokyotuc.jp

インフォメーション
http://bumi.jp/info_20171010/

ご予約は
http://bumi.jp/ticket/